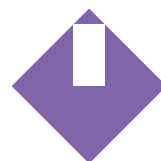


公認会計士稲門会



「公認会計士稲門会・会長報告」 「この1年の活動のご報告」



すぎた じゅん
杉田 純

(1974年 商学研究科修士課程修了)

「参加型公認会計士稲門会への着実な歩み」

本年度はやっとコロナ禍の種々の呪縛・制約から解き放される可能性が出て来ました。この3年間、直接会ってお話できないもどかしさからコミュニケーションの不足を会員全員が感じておりましたが、昨年12月の当稲門会役員会も3年ぶりにリアル（&ウェブ）で来場型の会議開催、並びに懇親会も開催することができました。また、公認会計士試験合格者の祝賀会も同様に4年ぶりに本年3月28日にリーガロイヤルホテル東京にて着座形式でのリアルでの開催ができ、久しぶりに華やかな雰囲気の中、対面でのパーティーの盛り上がりは120名を超える参加者からも喜びの声が聞かれました。今後も更なるコロナ禍前の日常復帰が期待されております。

その一方で、世界経済は昨年のロシアのウクライナ侵攻が1年を超え、相変わらず、食材・天然資源などの供給不安から資源高が続いており、日本国内の消費者物価も4%を超える勢いがあります。加えて、世界各国のインフレ抑制のための金融引締めによる利上げから、米国の銀行倒産なども発生しており、金融不安も今後加速しそうな情勢であります。IMF(国際通貨基金)は4月11日発

表の世界経済のGDP成長率予測で'23年度は2.8%と0.1ポイント引き下がる程度としましたが、後段ではGDP成長率が久しぶりに2.0%を切る確率も高いと警鐘を鳴らしてあります。日本経済について言えば、以上の諸物価の高騰に加え、人手不足が顕在化しており、更に輸出も減少傾向にあり、米国、中国などの主力輸出相手国の景気動向にも不安が残っており、インバウンド（外国人観光客の来日）の増加に期待が高まっているのが現状であります。また、カーボンニュートラルに始まり、本年からは人的資本に関する企業の状況や戦略についての開示などサステナビリティ経営への対応も強く求められており、とりわけ、東証プライム、スタンダード上場企業の5割がPBR(株価純資産倍率)が1倍を切っていることから、全上場企業が更なる企業価値向上へサステナビリティ経営と合わせて戦略を実行できるかが問われております。正しく、今こそ我々公認会計士の指導的役割が求められております。

以上の状況の中で、公認会計士稲門会は昨年来標榜してきております「参加型」の稲門会への変身を進めております。昨年度は、早稲田大学田中愛治総長の早大中期戦略の中で「スタートアップ支援」が取り上げられており、この戦略に呼応して当公認会計士稲門会内に「起業支援アクセラ部会」を新設し活動を始めております。アクセラ部会では、ファイナンス稲門会、ベンチャー稲門会、早稲田大学ビジネススクールとの連携も進めており、ビジネススクール主宰の大学院生の事業計画発表会の審査委員なども務めさせて頂く実績も積上げております。日本の将来を背負うベンチャー創出へ当稲門会も役立てたらと思量しております。他方、一昨年設置しました、「企業内会計士部会」、「女性会計士部会」も活動を順調に進めており、多くの新会員の方々に両部会の常任

幹事に就任頂き、セミナーやイベントの開催を進めております。

ここで、新年度の新たな課題として、「早大出身の公認会計士試験合格者増大」について何らかの施策を講じるべき事態が生じていると感じております。昨年度の早大出身の合格者は109名で2位、早大大学院修了者の合格者13名を加えて122名となりました。例年通り1位慶應義塾大学（187名）、3位明治大学（86名）となっており、慶應、明治は合格者を増加させている中、早稲田は前年対比で減少しております。この原因の一つとして、1位、3位の大学は両校共に在籍大学生への会計士試験受験への動機付け、啓蒙活動だけでなく、付属高校の高校生への啓蒙活動も熱心に行っており、高校生の早い時期から受験準備に関心を持たせている事実を確認しております。本件は本年総会での議題として取り上げたいと思っておりますが、事前に「後進育成部」と協議し、大学生への啓蒙に加えて、早大関連の付属高校への働きかけなど、本件課題への対応の戦略立案に着手しております。

「この1年間の活動報告」

1. 定時総会の開催

2022年7月5日開催の定時総会は、昨年に続きオンラインで開催されました。

総会では、令和3年度の会務報告、会計報告、監査報告、令和4年度の事業計画が原案通りに承認されました。次いで、報告事項として、①奨学事業の対象奨学生にウクライナを含む難民留学生を含めることを報告し、②新組織としての企業支援アクセラ部会設置の報告、③企業内会計士部会と女性会計士部会の活動報告、④ホームページの改訂進捗状況の報告、⑤前稲門会事務局の新創監査法人の中澤杏子氏、細野孝子氏へ功労感謝状の贈呈を行いました。

2. 役員会の開催

(1) '22年10月3日開催役員会—

オンラインで開催、決議事項として①広報委員会担当新副会長に抜水信博氏を、起業支援アクセラ部会担当新副会長に江黒崇史氏を選任、②起業支援アクセラ部会の5名の常任幹事と6名の部員の選任も承認、決議されました。

(2) '22年12月19日開催役員会—

3年ぶりにリアル&オンラインで開催し、懇親会も開催されました。決議事項としては、

- ①'23年3月28日に合格祝賀会をリーガロイヤルホテルで開催するための祝賀会プロジェクトを結成すること、②'24年4月から稲門会年会費の値上げを行うかどうかを、'23年7月の総会の決議事項とすること、条件として、稲門会の支出のうち最重要項目の会報発行について、発行部数の縮小のためオンラインでの会報交付の可否を時間を掛けて会員からの意見も集約しながら、可能な限りの支出削減計画も提示することを条件とすることとなりました。
- ③当稲門会としては初の会友として小松真実氏（ホームページ管理・支援業務、ファイナンス稲門会副会長）の選任を承認しました。
- ④早大商学部税務会計論IIの講師として平木敬氏の推薦を承認しました。

3. 大学・校友会関係

(1) 中央大学白門会総会へ出席—

'22年7月8日杉田会長、山田副会長で出席、コロナ禍で他大学から招待を受けた唯一の総会でした。

(2) 五士業稲門会（稲志会）総会への出席—

'22年9月10日、社労士、中小企業診断士、税理士、行政書士、司法書士の五士の稲門会である稲志会総会が開催されました。招待を受け杉田会長が出席し、今後は公認会計士も入れて頂き、六士業としてもらえないか打診して参りました。

(3) 総長招待「指定奨学生の集い」へ出席—

'22年12月21日に協副会長が出席。先立って早大奨学課から推薦された中国、韓国、スリランカからの奨学生3名の承認を稲門会「奨学委員会」で検討の上、行いました。

(4) 早大公認会計士講座との「合格祝賀会」の

共同プロジェクト発足—

'23年1月18日に早大にてプロジェクトチームリーダーの後進育成担当常任幹事堀秀行氏、同松下八寿彦氏が出席。

(5) 早大大学院会計研究科学学位授与式への出席—

'23年3月25日に井深大記念ホールでの授与式へ杉田会長が招待され、出席し、祝辞を述べ

させて頂きました。

- (6) 早大商学学術院と日本公認会計士協会東京会
との共催の公認会計士制度説明会への出席—

’23年4月26日に早大商学部で開催された大学
1, 2年生向けの公認会計士制度説明会で、杉
田会長が冒頭で会計士協会へ早大での開催の
御礼と公認会計士稲門会の活動状況、多様化
する公認会計士の役割、魅力についてお話し
させて頂きました。

- (7) 早稲田大学高等学院での「進路指導講習会」
への出席—

’23年5月17日杉田会長が高等学院2, 3年生約
1000名へ将来の進路の選び方と公認会計士制
度について基調講演と分科会での3コマの講演
をさせて頂きました。

- (8) 早大商学部からの税務会計論IIへの
2名の講師派遣要請—

現在、税務会計論Iを田村亮人氏（’10年法
卒）、税務会計論IIを平木敬氏に担当頂いてお
ります。

4. 公認会計士稲門会の来年度の展望

会長としての任期もあと1年となりました。
「参加型」稲門会への変身も未だ緒に就いたばかり
でございますが、最終年は任期中に新設させて
頂いた3つの部会の活動の拡大、深耕を進め、
又、早大関係者の公認会計士試験受験者増大を今
一つ大きな課題とし、戦略立案から実践まで何と
か漕ぎつきたいと思量しております。最終年です
ので、少しでも新たな道を拓いて行けるように頑
張りたいと思っております。会員の皆様の更なる
ご支援とご指導をお願い申し上げます。

令和5年 定時総会のお知らせ

本年度の定時総会と懇親会でございますが、定時総会は大隈会館にて3年振りに来場
形式で開催し、総会終了後には懇親会を開催させていただくことになりました。

詳細・お申込みについては、同封の「令和5年定時総会のお知らせ」をご確認下さい。

開催日： 令和5年7月5日(水)

● 定時総会 18時～18時30分

● 懇親会 18時40分～21時

会 場： 大隈会館 301～303号室

参加費： 公認会計士…7,000円・準会員…無料

— お問合せ先 —

三優監査法人 杉田 純（吉田）

電 話 03-5322-3531

FAX 03-5322-3593

E-mail cpatomonkai@bdo.or.jp

「公認会計士稲門会奨学事業」

－ 2022年度奨学事業報告 －



(奨学担当副会長)

山田 眞之助

(1980年 商学部卒業)

日ごろ奨学事業を支えていただいている皆様には敬意を表するとともに、心から感謝申し上げます。

2022年12月21日(水)リーガロイヤルホテル東京にて総長招待の奨学生の集いが開催され、脇一郎副会長が出席しました。

奨学金寄付は「広く軽く」を基本方針とし、より多くの皆さまに無理のない範囲でのご支援をお願いしています。引き続き本事業のために皆さまのご協力を賜れば幸いです。なお、寄付の申し込み方法は「公認会計士稲門会奨学金へ寄付のご案内」をご参照ください。

「2022年度総長招待 指定寄付奨学生の集い」
公認会計士稲門会奨学生集合写真(2022年12月21日)



お写真の右から以下のとおりです(敬称略)。
ラトナヤカ ムヂヤンセラゲタリドラクマルバンダラ (奨学生・スリランカ)
藤田 誠 (早稲田大学学生部門総括理事)
脇 一郎 (公認会計士稲門会企業内会計士部会副会長)
田中 愛治 (早稲田大学総長)
ソン イェリン (奨学生・韓国)
ジョ シウ (奨学生・中国)

2022年度の事業実績

1. 奨学金の給付状況

大学より次の3名を推薦いただき、各人に50万円を給付しました(学年は給付時)。

ジョ シウ (XU SHIYU) 教育学部 3年 中国

ラトナヤカ ムヂヤンセラゲタリドラクマルバンダラ
(RATHNAYAKA MUDIYANSELAGE, Tharindu Lakmal Bandara)

国際教養学部 4年 スリランカ

ソン イェリン 文学部 4年 韓国

2. 奨学事業収支年度別一覧

(単位: 万円)

年 度	1991～2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	累 計
寄付金収入	5,797.5	151	133	180	172.6	6,434.1
(寄付者数)	(1,778名)	(49名)	(46名)	(42名)	(38名)	(1,953名)
奨学金給付額	5,550	150	100	150	150	6,100
(奨学生数)	(111名)	(3名)	(2名)	(3名)	(3名)	(122名)
資金繰越残高	247.5	248.5	281.5	311.5	334.1	

3. 2022年度寄付者芳名(順不同・敬称略) 2023年3月31日現在

㈱JBAホールディングス	吉村 智明	稲葉 武彦	奥山 章雄	関口 典子	関口 茂
久保 直生	近野 博	金田 賢二	古谷伸太郎	戸田 厚司	黒沼 憲
山口 俊明	山田眞之助	七松 優	渋谷 道夫	勝島 敏明	松下八寿彦
上野 紘志	水谷 太郎	杉田 純	西山 隆司	津田 良洋	渡辺 俊之
藤田 世潤	内田 善三	抜水 信博	飛永 信雄	尾碕 隆昌	富永 和也
堀 秀行	堀内 三郎	木村浩一郎	鈴木 豊	高井 宏司	匿名3名

以上、38名

「早稲田大学大学院会計研究科における 公認会計士養成のための教育」



清水 孝
(大学院会計研究科長)
(1982年 商学部卒業)

会計研設立に向けて

大学院会計研究科(以下、会計研と略称します)は、専門職大学院として2005年に発足いたしました。それ以前は、私は商学部に所属しておりました。2002年から2003年にかけて、カリフォルニア大学パークレー校に客員研究員として滞在していた際、帰国近くになり日本に残っている先生と電話した際、帰国したら大変なことになるよ、と言われ何だろうと思っておりましたところ、2004年春から始まる会計研の設立委員会に所属し、設立後は商学部から移籍だと言われました。

もともと、私の研究はきわめて実務に近いところでしたので、商学部・商学研究科のゼミは残して、会計研に異動することを決めました。以後、設立のための準備を1年間行い、2005年に晴れて文部科学省の認可を得て船出をいたしました。

会計研の講義内容

専門職大学院は、高度専門職業人の養成に目的を特化した課程であり、理論と実務両方にまたがる事項の教育を行っています。専門職大学院は、会計大学院の他、法科、ビジネス、公共政策、教職などの分野で開設されています。

上記の目的を達成するため、会計研では10の系統について3段階のカリキュラムを置いています。10の系統とは財務会計、管理会計、監査、情報システム、企業法・民法、租税法、経済学、統計・データサイエンス、アクチュアリー、Professional Communicationであり、今日の会計専門家が求められる要素を網羅するものです。これらの系統について、基本的な理論を学ぶ基礎科

目、発展的な理論および実務との関りを学ぶコア科目、そして理論を実務に応用することを目的とする実務・応用科目の3段階を置き、十分な理論の理解に基づく実務教育を行っています。

会計研の教育目的

これらのカリキュラムを設置したのは、公認会計士試験に合格することを目的とするのではなく、試験合格は通過点であり、時代の変化に応じて公認会計士・会計プロフェッショナルとして活躍できる人材となることこそ、設立時に私どもが掲げた目的であったからです。

設立後も、これは継続して引き継がれ、目的達成のために稲門会の先生方のご助言、ご協力をいただきながら改善を行い、科目の充実をしてきました。その結果、2023年3月までの18年間で、修了生1,669名に対して691名の公認会計士論文式試験合格者を出すことになりました。直近の2022年度は在學生12名、修了生8名の合格者となっています。修了生は、みな監査法人にお世話になっており、その後も監査を続ける者、コンサルタントに転出する者、起業してCFOとなる者等、様々な場面で活躍をしており、上述の人材養成目的が果たされていると自負している次第です。

会計研のこれから

会計研は、2019年度にアクチュアリーコースを開設し、高度な保険数理の知識を有するアクチュアリーを育成しています。DX時代の今日、会計のみならず保険数理や統計の知識を持ち、デジタル・ツールを自由に使いこなす人材がますます求められるようになってきています。会計を主として学ぶ会計専門コースの学生、保険数理を主として学ぶアクチュアリーコースの学生は、互いの領域を自由に学ぶことができ、会計・保険数理分野のデータサイエンティストの要素を取り入れながらそれぞれの道で大成すべく切磋琢磨しております。さらに、夜間の社会人教育として、「財務経営陣のための会計・ESG講座」も開設し、広く会計に関する人材教育を行っています。これからも、会計士稲門会の皆様からのご支援、ご助言を賜りながら、日々進化をしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

「皆様いかがお過ごしでしょうか？」 (その2)



関根 愛子
(商学学術院教授)
(1981年理工学部卒業)

昨年に引き続き公認会計士稲門会会報に寄稿させて頂くことになりましたので、第2弾としてその後の近況をお話することにします。

昨年は、協会会長退任からの近況をつづり、海外出張が全て夜のウェブ会議に変更となったことで終えていましたので、今回はその続きから。

国内外の出張や旅行も増えてきたようですが、皆様はいかがでしょう？ 私は、国内は毎月のように、海外は1年程前から再開し、この4月まで、米国・欧州・東南アジアに計9回行って参りました。

その結果、少々辛かった夜のウェブ会議がめっきり減ったものの、当初は、他国への入国も日本への帰国も直前のPCR検査で陰性であることが必要でしたので、日本に到着してから抗原検査で陰性を確認し、書類のチェックを経なければ入国できないといった状況で、限られたスケジュールの中、ここで陽性だったら後のスケジュールの関係者に申し訳ないなあ・・・と思い多少ドキドキしながら検査結果を確認していたものです。最近はそうした検査や書類の確認もほぼなくなり、コロナが無くなったわけではありませんが、旅をする場合の制限はほぼ無くなったように感じています。

そのようにして久々にいった海外で、再認識したことが3つあります。まずは物価が高いこと。米国や英国はもちろん、その他の国々も、コロナ以前に比べていたときより、物価が軒並み上がっているようです。円安の影響も大きいですが、最近まで殆ど物価が上がっていなかった日本は世界の中でも珍しい存在ということが身をもって感じられました。

次に、マスクの着用。テレビ等でマスクが殆ど着用されていない欧米の街の風景が流れていますが、1

年前のNYではお店の従業員の方はほぼ着用されていました。他方、同時期のロンドンではお店の方も含めマスク着用はほぼゼロ。シンガポールでは着用が不要となって1日か2日は皆様子見でしたが、その後は着用する方はかなり少数派となったようです。現在も着用する方が多い日本とはお国柄の違いでしょうか。

最後は女性活躍。国際会計士連盟等の国際会議では、女性の姿がより多くなり、会議によっては男性が少数派になるところもでてきています。これも日本とはかなり違う風景を肌で感じたところですよ。

このように海外に行く機会も増えたこの1年間ですが、昨年ご紹介した業務の殆どは現在もつとめさせて頂いています。早稲田大学での教員生活も3年目となり、この3月にはゼミ1期生が無事卒業式を終えました。学生生活の大半をコロナ禍で過ごした世代ですが、私たちの学生時代とは違った形でそれぞれ充実した日々を過ごし、名残惜しくありつつも新たな生活に期待に胸膨らませている学生達を送り出すのは感無量でした。

ゼミ生をはじめ、担当する学生には公認会計士試験に合格した方、目指し続けている方が多いです。商学部学生の会計離れが言われて久しいですが、会計や会計士という職業に興味を抱きあれこれと質問してくる学生も少なからずいて、会計や監査、会計士の業務が社会のインフラとしていかに役立ち魅力あるものかを伝えるか日々考えているところです。

他方で、私達の世代には、学生時代に試験勉強ばかりせず他の経験をした方がよいのではとか、卒業までに合格しないと受験せずに就職してしまうのは会計士にそれほどなりたくないのでは、と感じる方も少なくないかと思います。しかし、実際に学生と接していると、学生生活とのバランスや将来のこと等日々悩みながら目指していることが感じられます。そのため、会計士を目指し試験に合格する方を増やしていくためには、この仕事の魅力を伝えと共に、将来の夢を実現していくためのモチベーションの維持をサポートしていくことが重要と強く感じるようになっていきます。

会計士を目指す方はもちろんのこと、卒業後様々な仕事をしていく学生にも、実務でいかに必要かを伝えながら興味を持って会計や監査を学んでほしいと考えてこの仕事を始め、今なお日々奮闘している私ですが、公認会計士稲門会の皆様にも是非こうした学生達を応援頂ければと思っております。

「早稲田大学大学院 経営管理研究科のアントレ教育」



長谷川 博和

(大学院経営管理研究科教授)

(2007年アジア太平洋研究科博士後期課程修了)

早稲田大学ビジネススクール(WBS)の特徴

WBSは2016年4月に商学研究科ビジネス専攻とファイナンス研究科の二つの専門職大学院が発展的に統合して誕生しました。これにより、ビジネス教育とファイナンス教育が一段高いレベルで相互に強化されました。

WBSは、そのミッションに掲げているように、実践的な知識の創造、グローバルな視点を有したリーダーの養成、ラーニング・コミュニティの形成を目指しています。WBSの教員には、経験豊富な経営幹部や超一流のコンサルタントであった実務家教員と、経営の各分野において第一線で活躍している研究者教員が揃っています。この教員構成だからこそ、机上の空論ではなく、かつこれまでの経営経験の単なる伝承でもない、実践的な知(Actionable Knowledge)を生み出すことができます。

アントレプレナーシップ教育

私は1982年に公認会計士二次試験に合格後、1984年に野村総合研究所に入社、株式会社JAFCOを経て1996年に独立系ベンチャーキャピタルを創業、20年以上、ベンチャーキャピタリストとして企業育成に携わってきました。その経験をさらに発展させるために、松田修一名誉教授のご指導を受け学術博士をいただき、2012年からWBSの教授に就任しています。公認会計士二次試験合格後、ベンチャーキャピタル経営時代にも杉田純公認会計士稲門会会長には本当にお世話になってきました。

WBSではアントレプレナーシップ(起業家精

神)を高めることを中心に教えており、ベンチャー企業の創造、大企業の新規事業の創造、ファミリービジネス事業承継者の育成の3分野を専門としています。

WBSでは全日制コースで学びながらベンチャー企業を創業する準備をしている学生や、夜間主コースで働きながら大企業でイノベーションを起こそうとする者、将来の事業承継に備えて実力と人間性を磨こうとする者、留学生として日本人との交流を深めながらグローバルリーダーとして羽ばたこうとする者など、多様な学生が緊密なネットワークを構築しながら切磋琢磨していることが特徴です。アントレプレナーシップに対する期待と必要性は高まる一方です。

スタートアップファクトリー

WBSではアントレプレナーシップ向上のために、多くの科目を提供しています。最近では中学高校生向けアントレプレナーシップ動画を作成しました。

www.bit.ly/waseda-entre

その中でも私が担当しています「スタートアップファクトリー」を紹介します。

この科目は必須科目などでベンチャー企業や大企業の新規事業を創造・運営するに際しての成功や失敗に関する事例や理論的分析、多くのビジネスモデル事例研究や海外のケーススタディなど、インプット科目を受講した後に受講するWBSの特徴的な科目です。

各チーム5人くらいので実現可能でイノベーションを伴うビジネスプランを毎週作成、発表して作り直すという、徹底的にアウトプットを繰り返す授業です。講師は早稲田大学のベンチャーキャピタルであるウエルインベストメント株式会社の瀧口匡社長と私の2名で担当しています。

学生達は毎週の発表に備えて深夜、週末の討議を繰り返し、また、年末年始には合宿を行うチームもいるなど、真剣に取り組んでいます。

中間発表会、最終審査会には公認会計士稲門会の「アクセラ部会」の先生達にも審査に加わっていただき感謝しています。多くの実務に関わってきてこられた会計士皆様のコメントは社会人学生達にとって大変貴重です。Panasonicや富士通の

新規事業担当常務やベンチャーキャピタル会社のパートナー、上場ベンチャー経営者などにも審査員に加わっていただき、理論と実務の両面からのアドバイスをいただいています。

さらに最終審査会上位チームは毎年2月、Stanford や Oxford、MIT や Babson College の MBA において、英語でのビジネスプラン発表会を実施、評価してもらうことも実施しています。

このように WBS に通う2年間の間に頭がちぎれるほど考え、徹夜をしたり、時には喧嘩をするほど熱い討議をする経験は将来、どのような仕事に就いたとしても必ずや役に立つと確信しています。現にこのスタートアップファクトリーを受講したチームから毎年、2・3チームのメンバーが会社を辞め、ベンチャー企業を創業しています。先輩達の中には株式公開の基準決算期に入っている企業も複数出ています。

今後も早稲田大学がアントレプレナーシップ分野に置ける世界最高峰の拠点になるように努力したいと思います。公認会計士稲門会の先生方に一層のご指導をよろしくお願い申し上げます。

「3年ぶりの合格祝賀会」



堀 秀行

(後進育成担当常任幹事)

(1995年商学部卒業)

3月28日(火)夜に、リーガロイヤルホテル東京(大隈会館隣)で早稲田大学公認会計士講座と公認会計士稲門会共催の公認会計士試験合格祝賀会が開催されました。

コロナ禍の影響で2019年3月以来4年ぶりの開催となりました。以前は立食形式であったものが今回は感染対策への配慮から着席形式による開催となったこともあり、個人的には準備段階で多少不安を感じておりましたが、杉田会長をはじめ公認会計士稲門会の諸先輩や各監査法人担当幹事の方々など皆様に強力なサポートをいただき、無事に合格祝賀会を催すことができました。

実務補習所の日程の関係で3月下旬に開催されることが通例となっておりますが、当日は年度末のお忙しい時期にもかかわらず、ご来賓、合格者、当会会員あわせて約130名の方々にお集りいただき、盛大な合格祝賀会となりました。

ご来賓として、長谷川恵一教授(商学学術院)、大塚宗春名誉教授(元日本公認会計士協会監事)、清水孝教授(大学院会計研究科長)、関根愛子教授(商学学術院、元日本公認会計士協会会長)、辻山栄子名誉教授(早稲田大学監事)、秋葉賢一教授(大学院会計研究科)、安井規雄先生(稲門法曹会常任理事)、岡野淳様(ファイナンス稲門会副会長)にご出席を賜り、合格者に向けた温かいメッセージも頂戴いたしました。

今回は参加いただいた合格者全員の所属とお名前をご紹介します、代表者5名の方には簡単なスピーチをお願いいたしました。

会の終盤には、早稲田大学応援部のリードで「紺碧の空」と「早稲田大学校歌」の2曲を出席者全員で高らかに歌い上げ、楽しい夕べはお開きとなりました。

「ワセジョ会計士NW～女性会計士の現状・部会活動の方向性」



種田 ゆみこ
おいだ
(女性会計士部会 副会長)
(1989年 商学部卒業)

「ワセジョ会計士NW イベント開催！」



茶田 佳世子
(女性会計士部会 幹事)
(1995年 第一文学部卒業)

★ワセジョ会計士NW こと女性会計士部会

女性部会は、担当副会長の私と常任幹事の園マリさん、藤森恵子さん、茶田佳世子さん、野田優子さんを中心に運営し、顧問の教務副会長の関根愛子さんと企業内会計士部会副会長の脇一郎さんにも大学連携などでサポート頂いてます。

★幹事会

Webとメール、時々リアル開催

★イベント

2022年11月ハイブリッドミニ講演会「関根愛子さん(日本公認会計士協会前会長、現早稲田大学商学学術院教授)と話そう！」と懇親会(24人)

★公認会計士合格祝賀会で、女性会計士部会PR

★方向性

1) ワセジョ会計士受験生の増加を目指す

2022年公認会計士試験最終合格者数1,456人のうち女性327人、女性比率22.5%。うち早稲田大学・大学院出身の補習所登録者数は121人のうち女性28人、女性比率23.1%。早稲田全体の合格者数増と会計士協会同様に女性合格者比率3割を目標に、大学と連携して取り組めます。

2) 女性部会 Facebook への投稿を増やす

3) 年1回以上リアルイベントの開催

★最後に

Facebook を開設ゆえ、ぜひ参加申請下さい。

ワセジョ会計士NW こと女性会計士部会では、昨年の会報での予告通り2022年11月23日(水・祝)に記念すべき第1回イベントをホテル ルポール麹町にて開催しました。

前半は「関根愛子さん(日本公認会計士協会前会長、現早稲田大学商学学術院教授)と話そう！」と題した講演会を現地とオンラインのハイブリッドで配信。関根先生ご自身のキャリアを振り返りながらの楽しいお話やアドバイスは、これからキャリアをスタートさせる若手ワセジョ会計士には言うまでもなく、我々のような熟年ワセジョ会計士にも様々な示唆を与えてくれました。

後半は、現地参加した年齢も性別も多様な会計士とその関係者総勢25名が美味しいお食事に舌鼓を打ちながら、今後のキャリアやワークライフバランス相談、将来の仕事のコラボレーションの可能性など各テーブルで様々な話題に花を咲かせました。このイベントには、ワセジョ起業家(キャリア女性の洋服 kayme 代表の毛見純子氏)にもご参加いただき、大盛況に終わりました。

ワセジョ会計士NW こと女性会計士部会では、今後もワセジョ会計士相互の支援やキャリアアップのためのイベントを企画する予定です。昨年開設された Facebook では様々な情報を発信しています。まだご参加されていない方も申請登録しワセジョ会計士の輪を広げていきましょう！

■ 公認会計士 稲門会「ワセジョ部会」Facebook ページ：

<https://www.facebook.com/groups/447086503596042>

「多様化する公認会計士
～企業内会計士部会が
Facebook 相談窓口設置～」



脇 一郎
(企業内会計士部会 副会長)
(1993年 商学部卒業)

公認会計士稲門会では、昨年度から企業内会計士部会を新設しました。近年では、企業に所属する公認会計士が急増しており、2022年12月末現在、日本公認会計士協会(JICPA)の組織内会計士ネットワーク会員(正会員)は2364人、社外役員ネットワーク会員(正会員)は1688人、単純合算で4284人、公認会計士正会員全体の116%(34670人)となっており、業界内でも主要なグループとなっています。

今年(2023年)4月に公認会計士法が改正され、従来「監査法人勤務」又は「公認会計士事務所開設」のいずれかに登録が必須であったのが、「企業勤務先登録」だけで公認会計士登録が行なえることになりました。これも、公認会計士の企業所属が増加したために、法制度対応されたものです。

公認会計士のキャリアは、多様化を極めています。企業内会計士も財務経理だけではなく、内部監査、経営企画、場合によっては経営者(社長、CFOなど)、また公官庁などで活躍する公認会計士もいます。社外役員も上場会社の50%以上に公認会計士が就任している状況となっており、企業のガバナンスを支えるキーパーソンとなっています。

企業内会計士部会では、若い優秀な人材確保に向けた活動の一環として、公認会計士を目指したい学生向けの相談窓口を設置し、キャリア相談などを行っております。下記のFacebook サイトが窓口となりますので、ぜひご参照ください。

企業内会計士部会 Facebook ページ：

<https://www.facebook.com/groups/681180423039929>

「公認会計士稲門会
アクセラ部会について」



江黒 崇史
(アクセラ部会副会長)
(1999年 商学部卒業)

公認会計士稲門会の皆様におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて昨年の公認会計士稲門会の役員会においてアクセラ部会が承認・発足されました。このアクセラ部会は杉田会長のベンチャー企業支援の想いや早稲田大学における起業家支援、スタートアップ支援の流れを受け、監査法人所属の方及び監査法人外においてスタートアップ支援をしているメンバー12名(現在は13名所属)により始まりました。

アクセラ部会としてはIPOを目指すベンチャー企業や起業を志す方、既にスタートアップを起業した方々などに向けた支援をし、早稲田大学から一社でも多くの上場企業や成長企業が誕生することを手助けしたいと考えております。

とはいえ公認会計士メンバーだけではできることも限られております。そこで発足以来、他の稲門会と意見交換や協業への取り組みを図ると共に、早稲田大学ビジネススクールの長谷川先生、東出先生へ早稲田スタートアップ支援に向けた連携について協議させていただくなどの活動しております。

そのような中、長谷川先生のスタートアップファクトリーにおいては審査員の一員を拝命いただいたり、ベンチャー稲門会においては学生起業家向けにセミナー講師を担当させていただいたり、ファイナンス稲門会とも連携に向けた取り組みを協議させていただいております。

まだまだ始まったばかりの部会であり、今後の活動については模索している段階でございます。ぜひ皆様から「このような取り組みはできないか」「こんな活動が良いのでは」などご意見、ご指導を賜れば大変ありがたく存じます。今後ともご支援、ご協力の程何卒よろしくお願い申し上げます。

「企業の飛躍的な成長を支援する 社外 CFO とは」



伊藤 史哉
(1999年 経済学部卒業)

皆さんこんにちは。経済学部 1999 年卒の伊藤史哉です。神奈川と東京を拠点にアクア会計事務所を運営しております。10 名程度の事務所ですが、お客様企業の飛躍的な成長のために社外 CFO というコンセプトで、財務・経営・IPO の支援をしています。私自身は上場会社や上場準備会社の社外取締役も務めております。企業の成長には、財務会計・管理会計・財務戦略の機能が不可欠ですが、会社の成長段階によって必要なものが変わりますし、必要なスキルが多岐にわたるため、社内の管理担当者がすべての役割を果たすのは現実的には難しいものです。そこで私どもは、お客様のステージや状況に応じた支援を実施することで、着実にステップアップしていただくことを目指しています。例えば、お客様の人員数が 10 ～ 30 名程度で事業が急激に成長している場合には、バックオフィス機能が成長に追いついていないことが多く、まずは土台となる財務会計をサポートします。お客様のマンパワー不足を補うためのアウトソーシングも行いますし、業務の複雑化や属人化に対処するため、見える化や業務改善も進めていきます。基礎となる部分が安定化すると、経営者も次のステージへ進みたいと思うようになります。管理会計の目的は、日常の業績等に見える化し PDCA を回していくことですので、その会社の事業や組織に適した形で予算を含めて管理の枠組みを整備します。さらには、中長期的な経営目標を達成するために必要なアクション（財務分析、事業方針、数値計画、資金調達等）を支援します。中小企業にこそ外部からの全般的支援が必要であり、お客様とともに成長することができますので、若い会計士の方々にも是非興味をもってほしいと思います。

「会計と IT の今後については」



尾田 雅夫
(1984年 商学部卒業)

この度は公認会計士稲門会の会報へ寄稿する機会をいただきありがとうございます。

私のこれまでの道のりと現在の業務及び今後の展望について簡単に記載させていただきます。

1. これまでの道のり

私は大学卒業の年に会計士 2 次試験に合格し、5 年の監査法人勤務を経て、実家の会社を継ぎました。会社では既存事業の習得と新規事業の立ち上げを行っていました。

その過程でアプリ開発の仕事をやってみたいと思い、ソフト開発の仕事を始めました。

2006 年頃に携帯電話（ガラケー）でのコンテンツ配信事業を始めました。

その後、2011 年頃からスマートホンへの移動が本格化し携帯事業が傾き始め、2013 年には同業者に事業譲渡をして倒産の危機を免れました。

2018 年頃に MS365 のローコードツール、RPA を知り、変革の到来を予感し、新事業へのチャレンジを行うため、業務効率化コンサルティングの勉強を 2019 年から 3 年間、コンサル会社で勉強し、現在は在阪のシステム開発会社と DX の導入支援の仕事をしています。

2. 今後の展望

最近世界的に最新 IT 技術を駆使して効率化が図られています。

政府も DX 戦略を喫緊の課題としています。

会計事務所も DX 化を図らなければ生き残っていけない状況です。

今後は IT 技術と会計に詳しい人が必要とされる時代になり、会計士の皆様は今後、IT に関する知識も必要とされます。

実家の商売を継いだ時には会計士の業務に係ることは今後ないと思いましたが、世の中の変化によりいつの間にか IT と会計知識が同時に必要とされています。

そのため会計士資格と会計に関する知識を有しているよかったですこの頃は思っています。

「二刀流？」



横倉 仁

(弁護士・公認会計士)

(1992年政治経済学部卒業、2006年法務研究科修了)

二刀流：①両刀使い、②左右の手に一刀ずつ持って戦う剣術の流儀、③(俗)菓子も酒も好きなこと。

「700字以内で弁護士活動について述べよ」というお題を頂きました。困りました。皆さんもおありでしょう。「会計士って何してるんですか」とはよく訊かれるけれど、一言では答えられない。どうしたって長くなる。その割に面白くない。私も監査法人時代のコンパで揚々と話してはみたものの、やがて場はしらけ、仕舞いには誰も聞いていないというザンネンな経験をしたことがあります。弁護士だって似たようなものです。

弁護士の業務領域は次のような感じです。X軸に依頼者の属性。個人か法人か。Y軸に活動場所。法廷か法廷外か。そしてZ軸に民事、商事、家事、公法、刑事といった法分野を取ります。弁護士の仕事の多くは、この3次元マトリクスのどこかに位置付けられます。大雑把にいうと、X軸Y軸は弁護士のマインドセットに、Z軸は弁護士のスキルセットに大きく関わります。

会計士出身の私には会計や監査といった他の弁護士にはないスキルがあり、そのことは私の業務範囲に色濃く反映されています。ですが、二刀流の真骨頂は、スキルというよりも、会計士としての知識と経験がマインドに大きく作用している点にあると思っています。職業的懐疑心。アサーションに対する分析的で批判的な検討姿勢。実査立会のような現場主義。これらは、XYZ空間のどこであっても、非常に役立つ普遍的なアプローチです。法曹界も人材の多様化が急務。ぜひ会計士出身の法曹が増えることを願っています。

さて私、大谷選手の二刀流には遠く及びませんが、菓子も酒も大好物。二刀流の面目躍如でしょうか？

「合格への道のりと今後の抱負」



三代 風花

(2022年政治経済学部卒業)

この度は、公認会計士稲門会会報への寄稿という大変貴重な機会を頂き、ありがとうございます。本稿では、試験合格までの道のりと今後の抱負について書かせていただきます。

1. 合格までの道のり

私が公認会計士の勉強を始めたのは、大学3年生の5月です。もともと一般就活をしていましたが、自分が興味を持てる仕事を中々見つけることが出来ていませんでした。そんなある日、ゼミの友人から会計士予備校に通っている話を聞きました。会計士のキャリアの幅広さと、女性も活躍できるという点に魅力を感じた私は、自分も目指すことを決意したのです。

合格までの道のりは、思っていたよりも長く辛いものでした。初めて受験した短答式試験が不合格だったときは、「私には会計の適性がないのではないかと悩みました。また卒業式では、有名企業に内定を貰っている友人と、試験に合格しておらず無職が確定している自分を比べ、将来への不安を感じたことを今でも覚えています。

大学を卒業した年に受けた8月の論文式試験で、私は無事に合格することができました。家族や友人、ゼミの教授、予備校の講師など多くの方々の応援と支えがあったからこそ、私は最後まで諦めずに頑張ることができました。感謝してもきれません。

2. 今後の抱負

将来私は、英語とサステナビリティ分野の専門性を高め、質の高い監査業務を提供できる会計士になりたいと考えています。これらの専門性を高めるために、日々の業務だけでなく自己研鑽にも努めて参ります。改めまして、この度は寄稿の機会を頂きましてありがとうございました。稲門会の皆様には、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

「合格までの道のりと今後の抱負」



楡井 滉生
(2023年 政治経済学部卒業)

この度は公認会計士稲門会の会報への寄稿の機会をいただき、誠にありがとうございます。僥倖ながら、私の合格までの道のりと、今後の抱負について書かせていただきます。

合格への道のり

私が公認会計士を目指したきっかけは、端的に言えば自分の価値を高めようと思ったからです。私は早稲田大学高等学院の出身で、正直に言ってしまうと高校時代はかなり遊んで日々を過ごしていました。大学に進学してから当初はサークルやバイトなど、ほとんど遊んで過ごしていたのですが、ふとある日にこのままで社会から認めてもらえる人間になれるだろうかと考えることがありました。そして考えた結果、資格というものが目に見えて自分の能力を社会に認めてもらえるものだと思い、公認会計士の資格勉強をすることにしました。資格勉強中は、このきっかけをモチベーションにしていたと言いたいところですが、実際のところは資格勉強をしていることを友人やバイト先など多方面に言ってしまうため、これで落ちたらダサいから後には引けないという思いで勉強していました(笑)。

今後の抱負

試験に合格して、無事監査法人に入社することもできましたが、これをゴールとは考えず、日々成長していくことを意識してこれからの業務に励みたいと思います。公認会計士とは言え、数は多くいますので、その中で自分をどう差別化していくかが大事だと考えています。「公認会計士という肩書があるから」ではなく、「あなただから」という理由で仕事の依頼を頂けるような会計士を目指して日々精進いたします。

「早稲田大学入学から公認会計士を目指すまで」



福田 将平
(2018年 教育学部卒業)

この度は公認会計士稲門会の会報に寄稿する機会を頂き、大変光栄に存じます。僥倖ながら、私が公認会計士を目指し合格に至った経緯についてお話をさせていただきます。

私は元々作家もしくは出版マスコミ関係の職業に就きたいと考えておりました。そこで卒業生に著名な作家が多く、出版マスコミ業界の就職にも強い印象があった早稲田大学を志望し、教育学部国語国文学科に入学しました。学生時代は早大生向け情報誌のマイルストーンを作成するサークルに所属し、記事の執筆を行っておりました。

3年次になると同団体の会計職にも携わりました。大きな金額を管理し、自らの判断で動かす経験をし、その面白さと責任の重さを実感しました。

この経験から社会人では法人のお金周りのサポートができる職業に就きたいと感じ、新卒で金融機関に就職しました。その営業先で独立された公認会計士の先生とお会いしたことが、公認会計士を知ったきっかけです。その先生から公認会計士について何ううちに、会計の専門知識を用いて法人のサポートがしたいと思うようになり、公認会計士を目指すことに決めました。

当初は働きながらの学習でしたが、新型コロナウイルスの流行により営業活動が制限され、それが学習時間の確保につながりました。そして2022年8月の論文式試験に合格することができました。

現在は大手監査法人に勤務しております。これから監査業務の経験を積み、将来的にはアドバイザリー業務やコンサルティング業務にも従事したいと考えております。

未熟な身でありますので、皆様には今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

「合格への道のりと今後の抱負」



藤田 明宏
(2012年社会科学部卒業)

この度は公認会計士稲門会会報への寄稿という貴重な機会を頂きありがとうございます。私は大学卒業後、10年という長い時間の中で様々な経験を経てから公認会計士試験に合格しました。新卒時は大手食品メーカーに営業職として就職しました。その後、外資系飲料メーカーに転職し営業を続けている中で、専門的な知識で仕事をしたいと強く思うようになりました。簿記2級を取得していたこともあり公認会計士に憧れはあったものの、試験難易度が高すぎるだろう、と自分の可能性に蓋をしていました。そんな折、大学の先輩が公認会計士試験に挑戦し合格したことを直接聞き、その姿に感化され、自分自身も挑戦してみようと思えました。

次に合格までの道のりですが、私は論文式試験3ヶ月前までは仕事と勉強を両立させていました。平日は2時間、休日は8時間と勉強時間目標を設定し、あえて淡々とこなすことで継続ができました。また私は20代後半からボディビルの大会に挑戦しています。ボディビルは365日が試合の一環で、食事のコントロールからトレーニングまで毎日試行錯誤が必要です。これは勉強にも大いに通ずる所があり、その経験があったからこそ成長でき合格に繋がったと感じております。

今後の抱負としては、監査のみならず海外駐在や税務など幅広い経験をし、見識のある人間に成長していきたいと考えています。そして、私は試験合格者に様々なバックグラウンドがある人々が増えることが、業界として今後変化の激しい時代に対応できる要素の1つになるはずだと考えています。私自身、年齢に関係なく挑戦できる資格であることを周囲に発信し続けていく所存です。

「合格への道のり、今後の抱負」



森 健二郎
(2021年社会科学部卒業)

私の父が税理士であり、子供の頃から会計の専門職に就きたいと考えていました。大学生の時に公認会計士という存在を知り、公認会計士試験を合格すれば、税理士登録も出来る。また、公認会計士はとてもレベルの高い資格であり、そのような資格に挑戦してみたいと考え、公認会計士受験を始めました。

私は、大学2年生から勉強を始め、合格したのは卒業してから2年目の年ですので、およそ4年間半の時間をかけて、合格することができました。学生の時は、周りの友達は遊んでいる中、自分はひたすら勉強を続け、誘惑も多かったです。卒業した後も、周りが働いている中、自分は仕事に就かず、勉強に専念している不安も大きかったです。このような状況の中、合格発表日に自分の受験番号を見つけた時は涙が出るほど嬉しかったです。今まで頑張ってきた自分に大きな自信を持つと同時に、公認会計士受験に挑戦する全ての人たちのことを尊敬しています。

現在は、監査法人で働いており、クライアント先のビジネスを理解したり、経理の方に相談するのは大変ではありますが、とても成長できる環境だと思っています。

今後の抱負としては、まずは監査法人で会計に関する土台をしっかりと築き、その後監査だけでなく、税務やアドバイザーなど幅広い知識を持った公認会計士になりたいと思います。

最後になりますが、この度は公認会計士稲門会会報に寄稿する機会をいただき、誠にありがとうございます。専門家としての自覚を持ちながら、日々成長できるよう業務に取り組んでいきたいと思ひます。

「合格への道のりと今後の抱負」



門間 壮太
(2019年政治経済学部卒業)

この度は、伝統ある公認会計士稲門会会報への寄稿という貴重な機会をいただき、大変光栄に感じております。誠に僭越ながら、合格への道のりと今後の抱負について書かせていただきます。

1. 公認会計士を志した理由

私は早稲田大学を卒業後、IT系一般企業に就職しました。通信インフラの営業に携わり、やりがいのある仕事でしたが、一方で興味ある分野で高い専門性を有する人材にもなりたいと考えておりました。そこで一念発起し公認会計士を目指そうと勉強を始めました。

1年目は働きながらの受験勉強でしたので、体力・精神ともにタフな戦いでした。退勤後に会社の会議室にかけこみ、夜の1時まで勉強し帰宅するという濃い生活でした。周りに受験仲間もおらず、孤独との戦いでもありました。タフな生活でしたが、目標に向かって人生を賭けて進む喜びも感じておりました。

2年目は退職し、背水の陣で挑みました。私を応援してくれる家族や友人のためにも合格するしかないという強い覚悟が芽生え、より一層力が入り、合格を勝ち取ることができました。

2. 今後の抱負

私は試験合格後、総合商社の経理部に就職しました。公認会計士を志した理由の一つに、一般事業会社の経理業務に携わりたいというものがあ、それを叶えた形となります。

合格後は監査法人で監査を学ぶのが一般的なルートの中、違う道を選んだことに不安はあります。しかしながら事業会社の経理経験を深く積めることを武器にし、違った視点を持てる公認会計士になりたいと今は考えております。

いつの日か、公認会計士を目指す早稲田の後輩たちが増えるような会計士に成長できることを夢見ております。稲門の誇りを胸に全力を尽くしていきます。

「私の夢、未来」



ソン イェリン
(2022年度文学部4年)

早稲田大学文学部美術史コースのソンイェリンと申します。まず、奨学金のご支援をいただき、誠にありがとうございます。奨学金のおかげで、学業にもっと集中できるようになり、私の未来、夢について一歩もっと近づいており、具体的に計画することができました。

私は中学校の時から日本語を学んで、日本という国についてももっと勉強したく韓国の外国語高等学校に進学しました。3年間日本と日本語の授業を受けながら実際日本で生活しながら今まで学んだことを活かしてみたいと考えました。

それで高校2年の時、早稲田大学に進学した先輩の話聞いて、早稲田大学だと色々な国の留学生と自分の夢を叶えようと考え、留学を決めました。特に同じテーマで、複数の作家たちが多様な作品を作り出すことに興味あり、文学部の美術史コースに進学しました。

学校では東洋美術と西洋美術の両方を学んでいます。個人的に西洋美術に興味が高く、演習とは別に西洋美術について講義も受けています。特に西洋美術の中で「受胎告知」というテーマを集中的に研究したくて卒業論文もその方向に作成しました。

大学で4年間、美術史について勉強しながら日本と韓国は地理的だけでなく、美術史的にもとても密接に関係しているということを知りました。それで卒業後韓国でももう一度美術史について研究し、日本と韓国の美術史に貢献する仕事がやりたいと思います。美術史以外にも両国の経済、歴史、政治研究する必要があるため、卒業後韓国の大学院でより深く研究する予定です。日本と韓国の美術史がより近く、仲良くなれるように頑張っていきます。ありがとうございます。

.....
上記のソン イェリンさん他、2名の奨学生がいます。1人目は、中国からのジョ シウさんで奨学金支給時に教育学部3年生でした。また、もう1人は、スリランカからのラトナヤカ ムヂヤンセラゲ タリド ラクマル バンダラさんで当時国際教養学部4年生でした。いずれの方も卒業後に日本と母国との懸け橋になっていたのではないかと思います。

(広報常任幹事 高島知治)

公認会計士稲門会ホームページのリニューアル

公認会計士稲門会初の会友となりました小松真実氏(ファイナンス稲門会の副会長であり、ファイナンス稲門会のホームページ管理・支援業務を担当)の多大なるご支援により、公認会計士稲門会のホームページ(以下「HP」)が、2023年1月28日に新しくリニューアルしました。

本HPの一番の特徴は、「ログイン」ページを設け、会員限定記事の掲載ができるようになったことです。

記念すべき最初の記事は、早稲田大学名誉教授・大塚宗春先生による「連載企画 早稲田大学の会計学の歩み」です。1月28日に「第1回 大隈重信と会計」を掲載して以来、今までに第3回までの掲

載をしております。7月1日に掲載予定の第4回以降は、戦前・戦後に活躍された佐藤孝一先生・青木茂男先生から始まり、我々アラフィフ世代には懐かしい新井清光先生・西澤脩先生・加古宜士先生までの早稲田の会計学の流れを一気に描く連載となっております。

是非、一度以下のURLまたはQRコードからアクセスをし、会員登録をして大塚先生の連載を楽しんで頂けますと幸いです！

<http://www.cpa-tomonkai.jp/>



印刷物郵送停止を希望する会員の方へ

世間一般においてIT化が進む中、ウェブやメールで閲覧できることから郵送物の不発送のご要望を一部の会員の方から頂戴することもありました。

このような流れに対応するため、メールやHPで情報確認するので会報等の印刷物郵送は無くても問題ないとお考えの会員の方には、ご連絡方法をメールに統一し、印刷物の郵送を停止するという取組を開始いたしました。

ご自宅に郵送物の送付をご希望されず、ご連絡方法をメールに統一して良いとお考えの会員の方におかれましては、お手数ですが下記のURL又はQRコードから、印刷物不用の旨のご連絡をお願い致します。



https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdyy-mELFBifVUepX1NIY00rIPJM1bT2U-000lvVQmf_NdGVw/viewform

※年に一度の会報等の印刷物の郵送は、公認会計士稲門会の会員に公認会計士稲門会の活動を知っていただく大切なコミュニケーションの機会とも考えており、これからも会報等の印刷物の郵送は継続していく方針です。

登録住所及び登録メールアドレス変更の際のご連絡のお願い

会報を登録住所に送付し、メール・ニュースを登録メールアドレスに配信しています。転居や事務所移転等に伴う登録住所やメールアドレスの変更がある際には、公認会計士稲門会の事務局宛のご連絡(info@cpa-tomonkai.jp)もしくはホームページの「お問合せ」からご連絡頂くようお願いいたします。ホームページのお問い合わせは、HOME⇒問合せ、からもアクセスできます。

令和4年 公認会計士試験合格者（公認会計士稲門会調べ）

下記は、学部が早稲田大学卒業者のみの人数です。

他大学の学部卒業生で、早稲田大学大学院卒業もしくは在学中の合格者が別途13名いますので、学部、大学院全体では早稲田大学出身合格者は122名です。

（主な大学別合格者）

	大 学 名	人数		大 学 名	人数
1	慶應義塾大学	187	5	立命館大学	54
2	早稲田大学	109	7	神戸大学	50
3	明治大学	86	8	京都大学	47
4	東京大学	57	9	同志社大学	44
5	中央大学	54	10	一橋大学	38

最近の母校



大隈重信公銅像 奥は11号館



大隈記念講堂



国際文学館（村上春樹ライブラリー）



国際文学館（村上春樹ライブラリー）内部



商学部11号館



政治経済学部3号館



理工学術院51号館

令和5年3月28日開催の合格祝賀会



合格者挨拶



杉田会長挨拶



長谷川恵一先生挨拶
(公認会計士講座担当)



名誉教授
大塚宗春先生祝辞



名誉教授
辻山栄子先生祝辞



大学院会計研究科教授
秋葉賢一先生祝辞



校歌斉唱

年会費のお振込みについてのお願い

当年度稲門会年会費(公認会計士6千円、協会準会員3千円)につきましては、総会当日、受付でもご納付頂けます。

また、銀行のATMやインターネットによるお振込みも可能です。その場合の口座番号は以下のとおりとなります。

会報に同封された振込取扱票に必要事項をご記入の上、ご送金頂いても結構です。準会員の方は金額訂正してください。

ゆうちょ銀行(9900)・店番(019)・店名(〇一九店／ゼロイチキュウ店)

預金種目(当座)・口座番号(0163893)

口座名: 公認会計士稲門会

ゆうちょ銀行同士では、口座番号は 00170-2-163893 です。

公認会計士稲門会は、主に会員の年会費により運営されています。さらに充実した組織を目指しておりますので、会員の皆様方には、ご理解ご協力の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

— お問合せ先 —

三優監査法人 杉田 純(吉田) FAX: 03-5322-3593 / E-mail: cpatomonkai@bdo.or.jp

編集後記

前回の会報の編集は、杉田会長にひっぱって頂いてなんとか編集を完了できたというのが本当のところでしたが、今回はやっと広報が主導して会長・事務局の助けを借りつつも編集を完了することができました。

前回と同様に寄稿者のうち合格者については、各監査法人の幹事の皆様にご選定のご協力を頂きました。寄稿者および推薦者の皆様、ありがとうございました。

なお、今回の会報からカラー化とスリム化に取組みました。明るい雰囲気会報を加えたいと考え、白黒からカラーに変更しています。多様な会員にご寄稿を頂くという趣旨のもと、寄稿者の人数は前回とほとんど変わらず、寄稿者の1名あたりの量を1ページから0.5ページにしています。

公認会計士稲門会の多様な会員の皆様のご寄稿は一つ一つ興味深く、面白い内容となっております。せっかくの機会ですので、今まで読んでいなかった会員の方にも、面白そうだな、読んでみようかなと思っていただけたら、うれしく思います。

(広報担当 抜水信博、小口 敬、江黒崇史、高島知治、高山清子)

(印刷会社 三共綜合印刷株式会社)